

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。教職員一同心より歓迎します。

皆様はコロナ禍や地震など多くの苦難を乗り越えて新たな学び舎に集うことになりました。とりわけ能登半島地震により被災された地域や住民の方々のご苦勞は続いています。大学での学びを通じて復興支援に貢献できる社会人に成長することは、地域社会の大きな期待でもあります。是非、自覚を持って今後の勉学に励んでいただきたいと思えます。

本学は食と経営を合わせて学ぶ大学です。人が生きるためには食は欠かせず、生涯にわたり楽しく豊かに食することは、人生にとって最も重要です。そのためには安心・安全で美味しい食を安定的に適切な価格で生活者に届けるフードビジネスの存在は欠かせません。生活を支える基幹産業のフードビジネスのすそ野は大きく、農林水産分野から食品加工・製造分野、卸・流通、外食、小売・サービス分野等、様々な分野でビジネスが存在しています。

北陸は食の宝庫とも言われ、伝統的な食文化が伝承され、他には見られない豊潤な「食空間」が醸成されています。今年3月の新幹線の敦賀までの延伸に伴い、国内外から多くの観光客を含め、人の往来が食を求めて増加する中、北陸の食文化は世界に向けて飛躍の機会を迎えています。これは北陸のフードビジネスが世界に飛躍できるチャンスでもあります。

このように北陸が育んだ伝統的な食文化と、海外からの新たな食文化の融合の機会が増えることは、新たなビジネス創造につながります。変化の大きい時代こそ新しいものが生まれるからです。だからこそ新たなビジネス創造の機会と捉えて挑戦をする人材を、社会は強く求めています。大学は、新入生の一人ひとりが食の未来を切り拓く専門職業人としての人間力を備えるために、専門職大学の強みを発揮して貢献していきたいと考えています。

一方で、日本のフードビジネスが抱える課題も見逃ごせません。グローバルな視点で見れば、日本のフードビジネス産業を構成する企業のほとんどが小規模であり、生産性も海外と比較しても低いとされています。これはビジネスで生み出す価値（利益）が相対的に低い水準にあることを表し、フードビジネス全般に経営に関する大きな課題が横たわっているとも言えます。しかし解決できない課題ではありません。将来の夢に向かって、足元の課題を解決しながら、新しいビジネスづくりに挑戦する専門職業人（経営者）が求められています。

皆様が真摯に食とそのまわりにある課題に向き合い、高い問題意識を持って授業や実習・演習に臨まれることを期待しています。また学生生活において教職員と学友や、地域社会との積極的な交流を通じて社会人としての求められる人間力の形成に努めて頂きたいとも思っています。そして常に謙虚にあらゆるものから学ぶ姿勢を持たれることで、より多くの知識と経験を積まれることを願っています。大学は皆様の夢のある未来をかなえるための挑戦を応援します。最後に、これからの4年間、皆様と本学で過ごせることを楽しみにしています。

かなざわ食マネジメント専門職大学
学長 岡内 祐一郎